

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和2年度農作物病害虫発生予察情報について

令和2年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

令和2年度農作物病害虫発生予報第3号

令和2年5月29日  
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年並)  
発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- 5月6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率 0.5%, 発病度 0.0)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発生圃場率:平成21~23年は未確認,平成24年は9.1%,平成25~令和元年是未確認)。
- 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間の前半は気温がかなり高くなり、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年並)  
発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- 5月5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率 1.4%, 発病度 0.1)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発生圃場率:平成21年は未確認,平成22年は5.3%,平成23年は未確認,平成24年は14.3%,平成25~28年は未確認,平成29年は22.2%,平成30年・令和元年是未確認)。
- 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間の前半は気温がかなり高くなり、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

## イネミズゾウムシ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 5月5半旬の巡回調査では, 発生圃場率が40.0%と, 平年(17.9%)に比べて高いが, 25株当たり成虫数は0.7頭と, 平年(0.8頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が5月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなり, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し, 殺虫剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が発生しやすいので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

## サツマイモ

### アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 5月5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が66.7%, 寄生株率が11.3%と, 平年(63.0%, 20.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が5月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなり, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 十分な量の薬液を散布する。

## イモキバガ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 5月5・6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が9.3%, 被害葉率が0.7%)。
- (2) 高松地方气象台が5月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなり, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に, 薬剤を散布する。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 5月5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が75.0%と, 平年(40.7%)に比べて高く, 寄生葉率は5.2%と, 平年(3.4%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が5月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなり, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 十分な量の薬液を散布する。

## II. 果樹

### カンキツ

#### ヤノネカイガラムシ

### 1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫の初発生は5月14日に確認された(平年:5月17日, 前年:5月10日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, 有機リン剤の場合, 35~40日後(6月18日~6月23日)である。

(2) スダチでは, 有機リン剤による防除は行わない。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

(1) フェロモントラップにおける5月第1~5半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数

石井町における調査では6頭と, 平年(136.1頭)および前年(234頭)に比べて少ない(表1)。

(2) 予察灯における5月第1~5半旬の果樹カメムシ類の誘殺数

勝浦町では, ツヤアオカメムシ・チャバネアオカメムシ・クサギカメムシの3種合計が66頭と, 平年(552.8頭)に比べて少ない(表2)。

上板町では, ツヤアオカメムシ・チャバネアオカメムシ・クサギカメムシの3種合計が199頭と, 平年(221.2頭)並の発生である(表2)。

(3) チャバネアオカメムシの越冬密度

2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 5地点で越冬を確認, 越冬成虫は0.7頭/m<sup>2</sup>であり(10年間で6番目に高い), 平年(2.3頭/m<sup>2</sup>)並で, 前年(成虫確認地点数は9地点, 越冬成虫数は7.0頭/m<sup>2</sup>)に比べて低い越冬密度であった。

(4) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなり, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので, 園内を巡回し, 飛来を確認したら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(単位は頭, 石井町)

月	半旬	2020年	2019年	平年
04月	1半旬	0	0	0.4
	2半旬	0	0	0.4
	3半旬	0	0	0.6
	4半旬	0	1	1.6
	5半旬	1	24	3.7
	6半旬	3	3	3.4
月	半旬	2020年	2019年	平年
05月	1半旬	4	63	21.4
	2半旬	0	8	24.3
	3半旬	0	57	34.1
	4半旬	0	64	27.7
	5半旬	2	42	28.6
	6半旬		20	29.6
月	半旬	2020年	2019年	平年
06月	1半旬		19	15
	2半旬		15	14.1
	3半旬		7	11.2
	4半旬		24	10.1
	5半旬		22	15
	6半旬		52	23.2

表2 果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移（単位は頭）

地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ			クサギカメムシ			3種合計			
			2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	
勝浦町	04月	1半旬	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	
		2半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		3半旬	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	
		4半旬	0	0	0.9	0	0	0.7	0	0	0	0	0	1.6	
		5半旬	0	30	5.5	0	4	0.9	0	0	0	0	34	6.4	
		6半旬	0	2	7.6	0	0	7.2	0	0	0.1	0	2	14.9	
	05月	1半旬	3	50	50.9	0	7	30.8	0	0	0.2	3	57	81.9	
		2半旬	11	19	57.7	7	9	13.9	0	0	0	18	28	71.6	
		3半旬	3	130	71.3	0	91	20.5	0	0	0	3	221	91.8	
		4半旬	14	144	160.9	7	124	41.7	0	0	0.3	21	268	202.9	
		5半旬	15	151	61.3	6	193	43	0	0	0.3	21	344	104.6	
		6半旬		75	78.1		182	41.6		0	0.3		257	120	
	06月	1半旬		340	73.7		29	15.5		0	0.1		369	89.3	
		2半旬		513	145.6		33	21.1		0	0		546	166.7	
		3半旬		93	108		11	25		0	0.5		104	133.5	
	上板町	04月	1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2半旬	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1
			3半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4半旬			0	0	0.5	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0.9	
5半旬			0	21	5.6	0	25	2.8	0	0	0	0	46	8.4	
6半旬			4	1	9.3	0	1	1.9	0	0	0.1	4	2	11.3	
05月		1半旬	43	15	28.3	0	15	7.6	0	0	0.1	43	30	36	
		2半旬	6	3	27.5	2	2	7	0	0	0.9	8	5	35.4	
		3半旬	20	32	43.9	2	15	12.1	0	0	0.2	22	47	56.2	
		4半旬	57	87	41.8	9	6	12.1	0	1	0.4	66	94	54.3	
		5半旬	47	21	28.2	13	11	9.9	0	0	1.2	60	32	39.3	
		6半旬		8	37.9		3	13.1		3	1.6		14	52.6	
06月		1半旬		21	21.7		4	8.6		3	0.8		28	31.1	
		2半旬		11	26.4		2	13.1		2	1.4		15	40.9	
		3半旬		1	13.7		0	4.3		1	0.4		2	18.4	

### Ⅲ. 野菜

#### 夏ネギ

##### さび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月5半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が26.4%, 発病株率が6.1%)。
- (2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなり, やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が17~23℃の時胞子飛散量が増加し蔓延が増加する。
- (2) 多発してからでは防除効果が劣るので, 予防散布や発生初期の防除に重点をおく。ネギには薬液が付着しにくいので, 展着剤を加え, 薬剤が確実に葉全体に付着するように散布する。
- (3) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので, 肥培管理を適切に行う。
- (4) 被害葉は伝染源となるので, 圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

#### ネギアザミウマ

##### 1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年並), 発生程度は「中~多」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が100%, 被害度が10.4と, 平年(85.0%, 10.1)並の発生である。

- (2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間の前半は気温がかなり高くなり、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
  - (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
  - (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

#### ネギハモグリバエ

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月5半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、被害度が0.8と、平年(86.5%、5.7)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間の前半は気温がかなり高くなり、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

#### IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。